

6

晴  
三  
步  
美  
大  
三  
四  
五  
大  
派

才  
三  
本  
林

才  
三  
平  
林

所  
上  
林

所  
下  
林

21.1.4  
第一編

(新編五國同書)

戦 史 資 料

獨立歩兵第三四五大隊(ホノムラタキチ)

第三中隊長 中西利夫

一 編成裝備関係

1. 自己部隊編成人員 一九〇名

兵器彈藥

輕機 九

彈藥 一〇〇〇〇発

小銃 一五七

此如

擲彈筒 九

此如

2. 騎員表

中隊長 陸軍大尉 中西利夫

第一小隊長 陸軍中尉 藤雅夫

第二小隊長 陸軍中尉 富田肇

3. 人員兵器等増減関係

昭和十年六月十日編成改正依り

一五五名

兵器 輕機九、小銃二、擲彈筒九、擲彈筒五、(他隊)

4. 現地住民使役関係

真勲捕獲ノ為島民ヲ使甲セリ

二 部隊履歴ノ概要

昭和十年十一月二十日廣島西新井二部隊ニ於テ獨立侵成才五聯隊才二大隊才五中隊ヲ編成 昭和十九年一月十五日自宇出港 今午二月十四日ホノムラタキチニ於テ警備 ホノムラタキチ一才 今午二月十九日以降ホノムラタキチニ於テ警備 二次討空戦ニ参加



海岸陣地 四日分ヲ取置ス

現地自活ノ状況

據莫須坂陣地附近ニ約三町歩ノ甘藷及キヤンサバ  
海岸陣地附近ニ約十町歩ノ甘藷キヤンサバヲ栽培セリ

六 訓練ノ状況

毎週約三日訓練ヲ実施シ 其ノ重要ヲ新込戦斗 射撃軍戦斗  
水陸反響ニ指シ向ス

五 戦手ノ状況

ノ 参加者主要ノ戦斗ノ概要 才一次ボス島對空戦斗 才二次ボス島對空戦斗

又 機動部隊ヲ養成シ 昭和十九年五月二日敵機部隊艦船約四十

隻ヲ撃破シ 艦砲射撃ヲ実施ス

3. 敵機ノ養成状況

近駐以來連日養成シ 昨トシテ百數十機ヲ養成

6.5 4  
ナ ナ ナ  
ナ ナ ナ

六 給養衛生

昭和十九年三月迄ヲ給養状況ニ逐次悪化シ 今年六月頃

よりハ 現地自活ニ依リ 最も限リテ補ヒ  
昭和二十年六月頃以降ハ 一人一日平均甘藷二キログラムヲ常食セリ  
衛生 給養ノ悪化ニ伴ヒ 栄養失調症患者増加シ 高血圧等ノ  
病状ノ外 傷寒者續出ス

陸軍

七 終戦直前帰還途、行動

自活作業ニ従事ス (終戦直後)

昭和二十六年四月 初旬以降、道路修築ニ従事ス

(日本入トシ)

1293



三  
中

戰史資料

陸軍

獨立步兵第三四五六大隊第三中隊(南洋群島木太島)

中隊長 陸軍大尉 森山樽夫

一編成裝備關係

一編成人員二四名。兵器 小銃(二〇) 九九式輕機(九) 八九式重擲(九)

彈藥 小銃彈(六三〇) 重擲(八四〇) 擲

二職員表

中隊長	陸軍大尉	森山樽夫
第一小隊長	中尉	上田重右
第二小隊長	中尉	繁富清一
第三小隊長	中尉	岡崎太郎

三人員兵器増減關係ナシ

四現地住民使役ノ關係ナシ

二部隊履歴ノ概要

一昭

昭和十八年十一月 廣島ニ於テ獨立混成第五聯隊第六中隊

昭和十九年六月 獨立步兵第三四五六大隊第三中隊編成

三指揮系統關係具々變遷ノ概要

昭和十九年六月 獨立混成第五聯隊ヨリ獨立步兵第三四五六大隊ニ變遷スル

四作戰準備關係

一作戰計畫ノ概要

防禦方針 汀際撃滅

防禦配備 海岸陣地 據点陣地 預張陣地

一 起工時期 昭和十九年二月二十日

所要人員 一二四名

使用資材 現地山林材木

一 完成時期 昭和二十年八月十四日

強度 八〇%

一 敵攻撃ニル破壊補修狀況 ナシ

(日本ノ一ト納)

明元  
會料  
比島  
す  
る

三 港灣施設 飛行場施設 ナシ

四 作戦準備 國策に主要ナル命令ノ内容 ナシ

五 軍需品 集積状況 ナシ

現地自活、状況 五町歩

六 訓練 状況 四〇% 戦斗準備ヲ訓練ナス

七 戦斗状況 ナシ

八 給養、衛生

現地生産品 甘藷等ヨリ實現ス

衛生 テノ執守等發生ニ至モ概テ良好ナリ

九 終戦ヨリ帰還迄、行動、概要

終戦後現地自活及米軍雜役ニ服ス

日本ノ下納

LA

陸軍

戰史資料

獨立歩兵第三四五大隊 歩兵中隊(南洋群島木島)  
歩兵中隊長 陸軍大尉 佐々木隆將

編成人員 一二二名

武器 九式步槍二 九式三鞭砲二 十銃一  
彈藥 九式步槍一〇〇〇發 九式三鞭砲一〇〇〇發

2 職員表 中隊長 陸軍大尉 佐々木隆將

才下隊長 西谷 悟

才下隊長 中尉 塩田 操

才下隊長 中尉 新井 治郎

人員 歩兵等 増添關係

昭和一六八 九式三鞭砲 増加

4 台湾人 韓人 現任兵等 一切使用せず

部隊發展の概要

昭和十九年十一月十五日 南洋群島に於て獨立歩兵中隊編成

昭和十九年一月十五日 中部太平洋攻進 為守島老老

二月五日 木島上陸

六月十日 獨立歩兵第三四五大隊編成

昭和二十年十月九日 内地帰還 為守島老老

三月五日 補費上陸

指揮系統關係其の變遷の概要

獨立混成第五聯隊より昭和一六六 臨時編成下令依り獨立歩兵第三四五大隊ニ變遷せん

作戰計畫の概要

(日本ノト西)



防禦方針 汀際警備

防禦配備 海岸陣地 橋梁陣地 砲臺陣地

2. 陣地状況

(1) 砲臺時期 照一五二〇

人員 八九名

使用器材 砲地山林材木

(2) 完成時期 照一〇一四

砲臺 八〇%

(3) 敵攻撃による破壊 補修中

(4) 港湾施設 飛行場施設中

3. 炸薬準備 園に命令中

4. 軍需品 事情 輸送 無補給中

現地自造 状況約四所 甘藷島 園整

補給輸送 船損耗中

5. 訓練 状況 四〇% 新舟準備 訓練中

五. 戦時状況

1. 参戦による要領 作戦 一六次 一七次 木十 (島村艦隊)

2. 機動部隊 未整備 照一五五 二 四 五 六 機動部隊 未整備

3. 敵機 未整備 輸送 輸送 輸送 輸送 輸送 輸送 輸送 輸送

4. 不明

5. 不明

6. 不明

六. 結核ハ新補給ヲ極大ク疎悪ニシテ終戦時ハ自造農園ノ

其藩ニヨリ 衛生状況ハ一ツク 衛生状況ハ一ツク 衛生状況ハ一ツク

良好ナリ

七. 終戦後ハモトテ自造農園ニ力ヲ注グドモ米軍進駐後ハ

米軍ノ要求スル作業ニ従事ス

47

戰史資料

獨立步兵第三五大隊機甲銃中隊（南洋群島ホト島）

中隊長 陸軍大尉 青藤文七



一、編成裝備關係

1. 自己部隊及關係部隊編成人員兵器彈藥編成人員

2. 中隊編成人員

中隊長	大尉	1	人員	摘要
指揮班	准尉	1		
戰銃隊	大尉	1	76	二、小隊編成人員 小隊八附古 211
彈藥小隊	准尉	1	77	
計 133				

口兵器彈藥

兵器	種類	員數	彈藥	種類	員數
九式重機銃	自動銃	1	重機銃彈	自動銃彈	1000
小銃	小銃	20	小銃彈	小銃彈	600
拳銃	拳銃	24	拳銃彈	拳銃彈	600
	指揮彈		指揮彈	指揮彈	100

2. 職員表

中隊長	陸軍大尉	青藤文七
第一小隊長	少尉	山岸明正
第二小隊長	陸軍少尉	西田政次
彈藥小隊長	陸軍准尉	荒木政

3. 人員兵器等増減關係

4. 台灣人、鮮人、現地住民使役關係

(日本ノト絶)

陸軍

部隊履歴概要

昭和十八年八月二日 独立混成第五聯隊才 樺岡鏡中隊トシテ編成完結  
昭和十九年一月一五 南洋群島ボトノ島派遣ノタメ守備港出港

二一四ボトノ島上陸

昭和二〇年六月一〇 独立混成才五十二旅団獨立歩兵才三四五大隊

樺岡鏡中隊トシテ編成改正

同島守備間ニ教團ノ対空戦斗ノ他ニ陣地構築訓練

自活等ニ專念シタル戦斗ナシ

指揮隷屬關係其ノ変遷ノ概要

常ニ大隊長ノ指揮下ニテリテ特記スベキコトナシ

四 作戰準備關係

一 作戰計畫ノ概要

防衛方針並ニ防衛配備

大隊ハボトノ島守備隊ノ總予備隊トシテ概チ同島

ノ中央ニ位置シ總予備隊ニ任務ニ服シ中隊モ之ニ基キ

行動シタリテ方針並ニ配備ニ特記スベキコトナシ

二 陣地状況

一 起工時期 昭和十九年三月下旬

所要人員 一四五五〇人

使用資材 一 掩蓋材料 ↓ 現地野生材

(生石灰(リ)ノ製造)

三 完成時期

昭和十九年末迄ニ概チ野戰築城ヲ完成シ昭和二十年

ニテリテ之ガ強化補修並ニ半永久化ニ努メタリ

強度

構築品ニ機銃並ニ自動砲掩蓋ハ基トシテ中輕掩

蓋ニテテ崗・健在設備トシテ抗道ノ構築品ニ努メタリ

八 敵攻專攻ノ破産補修状況

特記スベキコトナシ



3. 作戦準備、南支主要山命令内容

ナン

4. 軍需品、集積状況

現地自活ノ状況 昭和十九年七月頃より開始ニ着手シ  
終戦直前ニ於テ約四町五反ノ自活農園ヲ確保  
シヤリタリ、主要作物ハ甘藷並ニタバコカニシテ若干ノ  
野菜ヲ栽培セリ

5. 訓練ノ状況

訓練使用時間ハ各時期ニテ旅團ヨリ指定セラレ  
実施シ、終戦直前ハ陣地構築五、訓練四  
現地自活一ノ比ヲ以テ実施シヤリタリ  
訓練事項、防禦、反撃、対空、対壕、中隊、  
隊、隊等ヲ主トシテ実施ス

五、戦斗状況

特記ニハナク戦斗ナシ

六、給養衛生

兵補給ニテ給養状態ハ極度ニ困難ヲ来シ  
當初憂慮スル状態ニアリタレモ自活生産ニヨリ  
逐次緩和セラレ終戦直前ニ於テハ概テ体力維持  
可能ノ程度ニ到達シタリ

衛生状態ニ於テハ結核性患者ノ数名出シタリ  
外、特記スルモノナシ

七、終戦ヨリ歸還コトノ行動ノ概要

主力ハ米軍指令建築、陣地復旧作業、道路  
作業等主トシテ米軍ノ要求ニ基クテ作業シタリ  
一部ヲ以テ現地自活ニ服ス





浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十六日)

史実調査参考資料報告

摘要

所在地	所屬部隊	職官	氏名	職
南洋群島中ノ島	独立歩兵第三五五大隊	大隊本部附陸軍大尉	清水三郎	終戦時ノモ ウ記ス
天那事変以降ニ於テ自己ノ略歴	所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要	氏名	清水三郎	職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス
所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要	所屬部隊ノ概略	職官	職官	職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス
終戦又ハ主 力ノ戦斗終 了ノ後ノ状況	所屬部隊ノ概略	職官	職官	職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス
其ノ他ノ参 考事項	所屬部隊ノ概略	職官	職官	職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス

浦賀上陸地支局

(昭和20年12月25日)

史実調査参考資料報告

所在地

ボナノ島

職官

陸軍大尉 福田 愛次

終戦時ノモ  
ノ記ス

支那事変  
以降ニ於テ  
自己ノ略歴

一、支那事変ニ参加シ、南京攻没後、佛印進駐ニ  
参加シ、昭和十七年七月及八月、生野隊  
二、昭和十七年十月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入  
三、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入  
三、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入  
三、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入

氏名

福田 愛次

職ノ更及  
ニ於テ  
戦斗名ヲ  
記ス

所屬部隊

一、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入  
三、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入

編成年月日  
及編制裝備  
ノ概要

一、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入

所屬部隊ノ  
概要

所屬部隊ノ  
概要

一、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入

所屬部隊ノ  
概要

一、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入

所屬部隊ノ  
概要

所屬部隊ノ  
概要

一、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入

所屬部隊ノ  
概要

一、昭和十七年十一月、修野隊ニ参加シ、三豆島ニ編入

所屬部隊ノ  
概要

終戦ノ又ハ主  
力ノ戦斗終  
了ノ後ノ状況

一、連チ、自信ニ努力シ、新兵器ノ少シ  
一、甘藷、ヤカ、増産  
二、製衣機、須撈ハ、代  
三、砲給、適正ノ期ニ給養ノ向トニ勉ム  
三、米船輸送ニ依リ、延着シ、船中多シ、給養ノ

終戦時ノモ  
ノ記ス

一、連チ、自信ニ努力シ、新兵器ノ少シ

終戦時ノモ  
ノ記ス

帰郷(又ハ津  
絡)ノ先

一、連チ、自信ニ努力シ、新兵器ノ少シ

終戦時ノモ  
ノ記ス

一、連チ、自信ニ努力シ、新兵器ノ少シ

終戦時ノモ  
ノ記ス

其他ノ参  
考事項

一、連チ、自信ニ努力シ、新兵器ノ少シ

終戦時ノモ  
ノ記ス

一、連チ、自信ニ努力シ、新兵器ノ少シ

終戦時ノモ  
ノ記ス

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十六日)

史実調査参考資料報告

所在地 南洋ホラ(島) 職官 大隊附 陸軍大尉 政春

所屬部隊 獨逸歩兵第三四大隊 氏名 泉

支那事変以降於自 昭和三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

所屬部隊 編成年月日 及編制裝備 概要

所屬部隊 概要

所屬部隊 概要

所屬部隊 概要

所屬部隊 概要

所屬部隊 概要

所屬部隊 概要

所屬部隊 概要

所屬部隊 概要



浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十六日)

史実調査参考資料報告

<p>所在地</p>	<p>南洋群島本島</p>	<p>職官</p>	<p>副官 大尉</p>	<p>終戦時ノモ ウ記ス</p>
<p>所屬部隊</p>	<p>独立歩兵第三五大隊</p>	<p>氏名</p>	<p>森脇義一</p>	<p>職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス</p>
<p>支那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略歴</p>	<p>自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 召集解除 昭和十八年十一月一日 召集解除 昭和十八年十一月一日 召集解除 昭和十八年十一月一日 召集解除 昭和十八年十一月一日</p>	<p>職</p>	<p>自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月</p>	<p>職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス</p>
<p>所屬部隊ノ 編成年月日 及編制状態備 ノ概要</p>	<p>昭和十九年六月十日編成改正独立歩三四五大隊 編成本部 一般中隊三所中隊一 小銃 九二七 五二五 所一 自動砲二 TA二 所二 曲射砲二</p>	<p>職</p>	<p>自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月</p>	<p>職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス</p>
<p>所屬部隊 ノ概要</p>	<p>昭和十九年二月十四日本島ニ進駐 昭和二十年 十一月十日迄 該島守備 陣地構築 対空銃斗 現地自活ニ従事ス</p>	<p>職</p>	<p>自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月</p>	<p>職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス</p>
<p>終戦(又ハ主 力ノ戦斗終 了)後ノ状況</p>	<p>終戦後ハ戦斗行動ヲ停止シ教育 自活、米軍政部ノ要求ニ依リ諸作業ニ 従事ス 米艦ニ依リ歸還輸送ハ取扱給養食 共先ヲ可ナリ</p>	<p>職</p>	<p>自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月</p>	<p>職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス</p>
<p>帰郷(又ハ連 絡)先</p>	<p>島根県</p>	<p>職</p>	<p>自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月</p>	<p>職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス</p>
<p>其他ノ参 考事項</p>	<p></p>	<p>職</p>	<p>自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月 自昭和十七年七月</p>	<p>職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記ス</p>

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十五日)

史実調査参考資料報告

摘要

所在地	南洋群島ポナペ島	職官	大隊本部附 中村柴田長市	終戦時ノモ ウ記入
支那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略歴	支那事変 大隊本部附 大東亞戦争 小隊長 大隊本部附 昭和十九年六月十日 独立歩隊第三五大隊 編成改正 大隊本部附 中隊 中隊	徐洲作戦 漢口作戦	中隊	職ノ変更及 テタル参加 戦斗名ヲ 記入ス
所屬部隊ノ 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	昭和十九年六月十日 独立歩隊第三五大隊 編成改正 大隊本部附 中隊 中隊	中隊	中隊	最後ノ所屬 部隊ヲ主ニ 尚ソ以テカ 所屬部隊ノ 分ヲモ概要 ノ
所屬部隊 ノ概略	ポナペ島ニ在リテ警備勤務ニ従事			
終戦ノ又ハ主 力ノ戦斗終 了ノ後ノ状況	体育訓練 職業補導等ヲ実施シテ帰還ヲ待ツ 故還輸送ハ米國 卵ナリシニ豫想外ニ親切ニ取扱ハル			帰還輸送 ノ状況ヲモ 行記ス
帰郷(又ハ津 絡)ノ先				
其他ノ参 考事項				

北洋一志

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十五日)

史実調査参考資料報告

摘要

所在地	南洋群島ボナ島	職官	大隊附 陸軍醫尉 西原清一	終戦時ノモ ノヲ記ス
所屬部隊	獨逸兵第三四五大隊	氏名	昭和一、二、三〇 野砲兵第五聯隊大隊附(充員) 大隊附 大原政昭 徐州会戦、廣東攻略戦、北海上陸戦、南支攻略戦 昭和一、五、三六 百未解隊 昭和一、五、三二 凌知縣衛生技師 昭和一、八、二二 西新野二部隊大隊附(充員) 百未(北支)第五聯隊附 南洋群島ボナ島大隊附	職ノ変更及 ニテル参加 戦ノ名ヲ 記ス
所屬部隊ノ 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	昭和一、八、二二 西新野二部隊大隊附(充員) 百未(北支)第五聯隊附 南洋群島ボナ島大隊附 昭和一、八、二二 西新野二部隊大隊附(充員) 百未(北支)第五聯隊附 昭和一、八、二二 西新野二部隊大隊附(充員) 百未(北支)第五聯隊附 昭和一、八、二二 西新野二部隊大隊附(充員) 百未(北支)第五聯隊附	昭和一、八、二二 西新野二部隊大隊附(充員) 百未(北支)第五聯隊附 南洋群島ボナ島大隊附	昭和一、八、二二 西新野二部隊大隊附(充員) 百未(北支)第五聯隊附 南洋群島ボナ島大隊附	最後ノ所屬 部隊ヲ主ニ 尚ソ、以テ 所屬部隊ノ 分ヲ概シテ 入
所屬部隊 ノ概要	ボナ島ニ在リテ警備勤務ニ従事			
終戦ノ又ハ主 力ノ戦斗終 了ノ後ノ状況	体育訓練、職業指導等ヲ実施シ、帰還ヲ 待ツル中、輸送ハ米同船ナリシニ、豫想外ニ親切 取扱ハル			帰還輸送 ノ状況ヲ 備記ス
歸郷(又ハ津 絡)ノ先	岐阜縣			
其他ノ参 考事項				

浦賀上陸地支局

(昭和) 年 月 日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島ホト島

職官 大隊附

所屬部隊

独立歩兵第三大隊

氏名 陸軍中尉 牧野 豊市

終戦時ノモ  
ウ記ス

支那事変  
以降ニ於ケル  
自己ノ略歴

南洋群島ホト島守備  
大隊附主計

職ノ変更及  
テアル参加  
戦斗名ヲ  
記ス

所屬部隊ノ  
編成年月日  
及編制裝備  
ノ概要

昭和十八年十月二十二日 独立混成第五聯隊編成定結  
大隊ノ編成

所屬部隊  
ノ概要

本隊 歩兵三中队 附中队 以中队  
昭和十九年六月十日 独立歩兵第三四五大隊編成改正  
大隊ノ編成

所屬部隊  
ノ概要

本隊 歩兵三中队 附中队 以中队

所屬部隊  
ノ概要

昭和十九年二月十四日 和ホト島ニ進駐  
昭和二十年七月十日迄 該島守備  
現地自治ニ従事

所屬部隊  
ノ概要

終戦後ノ專ラ教育及現地自治ニ従事ス

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ

終戦後ノ專ラ  
教育及現地自治  
ニ従事ス

米糧ニ依ル運送ハ其ノ取扱及伝達其根示可ナリ







浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月二十六日)

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島ポナペ島

職官

歩兵中隊小隊長  
陸軍中尉  
落合 義弘

終戦時ノモ  
ウ記ス

所屬部隊

獨立歩兵第三四五大隊

氏名

落合 義弘

天那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴

南洋群島ポナペ島守備  
歩兵中隊小隊長

職ノ変更及  
主ナル参加  
戦斗名ヲ  
記ス

所屬部隊ノ  
編成年月日  
及編制裝備  
ノ概要

昭和十八年十月二十日 獨立混成第五聯隊  
歩兵三大(三中隊) 1A各一中隊  
A大隊 S隊 P中隊



昭和十九年六月十日 獨立混成第三四五大隊  
歩兵三中隊 1A各一中隊 (1A 3TA 2)

所屬部隊  
ノ概要

獨立混成第五聯隊、昭和十八年十月二十四日廣島市中於  
テ編成ヲ完結昭和十九年六月十日大島島ニ向テ三回ニ分レ内  
地港灣ニ出テ途中敵機ノ妨害ニテ状況変化第一  
次ノ大島島ニ到リ第二次ノ大島島第三次ノ南島  
島ニ上陸中隊ノ第一中隊ニ由リ南島島ニ向テ  
テ守備ニ就キ砲爆撃ニ昭和十九年一月以降一日ノ際ニ  
テ連続シテ敵機部隊出現上陸ノ気勢ヲ示シ事  
二回小島敵艦艇解、島國也出テ事一画ス

最後ノ所屬  
部隊ヲ主ニ  
示シ以テ  
所屬部隊ノ  
分テモ概記  
ス

終戦ノ又ハ主  
力ノ戦斗終  
了ノ時ノ状況

昭和二十年八月十五日夜終戦ノ詔書喚起後多クノ苦  
己モ其ノ詳細事情一切不明ナリ其ノ約一週  
ニ於テ戦力増強陣地補備増強ニ努メ万  
一為備ヘテ再後状況ノ判明ニ伴ヒ陣地補強ニ出  
テ自衛力増強ニ努メテ陣地補強ニ出  
テ自衛力増強ニ努メテ陣地補強ニ出  
テ自衛力増強ニ努メテ陣地補強ニ出

帰還輸送  
ノ状況ヲ  
行記ス

帰郷ノ又ハ連  
絡ノ先

島根縣



其他ノ参  
考事項







